

おおふなと

ふれあいネットワーク

社協だより



2017年 5月号

【特集】みんなで育む子どもの笑顔 …… 2~3
陽だまりサポーターが伺います …… 4
第50回鯉のぼり子どものつどい …… 4
福祉教育推進モデル事業 …… 5
中赤崎地区交流会 …… 5
おしらせ …… 6~7
輝き人 …… 8



今月の表紙

み うら しょう あや
三 浦 渉さん・彩さん
れいと もも こうが
羚斗くん・桜ちゃん・晃河くん
(9才) (2才) (1才)

みんなで育む 子どもの笑顔



— 子育て支援3事業 —

「アウエイ育児72%」

NPO法人子育てひろば全国連絡協議会が全国の地域子育て支援拠点（つどいの広場・子育て支援センター・以下「拠点」）を利用する母親にアンケート調査を行った結果です。

「アウエイ育児」とは自分が育つ市区町村以外で子育てをすることをいいます。

この調査により、「子育てをしている親と知り合いたかった」「家族以外の人と交流する機会があまりなかった」「子育てでつらいと感じることがあった」と、地域でのつながりを十分に持つことができず、孤立した子育てに悩む母親の姿が明らかになりました。

拠点を利用するようになり、「子育てでつらいのは自分だけではな」と思えるようになった」「子育ての悩みや不安を話せる人ができた」「大人と日常的な会話をする機会が増えた」など周りとのつながりが増え、子育てに前向きになる変化が起きています。※(NPO法人子育てひろば全国連絡協議会「地域子育て支援拠点事業に関するアンケート調査2015」より引用)

転勤や結婚により、大船渡市にも「アウエイ育児」をしている母親が多くいます。近くに頼れる人がいな

いことで、孤独や不安を抱きながらの子育てにならないよう、つながりを作り、「アウエイ」を「ホーム」に変える子育て支援が必要とされています。

社会福祉協議会では、大船渡市の委託を受け、次の3つの事業を実施しています。

《つどいの広場わいわいステーション

（地域子育て支援拠点事業）

0歳～小学校入学前の子どもとその親が気軽に、そして自由に集える場を提供し、保護者と子どもたち同士の交流をお手伝いしています。

つどいの広場（以下「広場」）は、毎週火曜日～土曜日の午前10時～午後4時まで、大船渡市Y・Sセンターで開設しています。利用料は無料です。

広場には、子育ての経験を持つ「子育て支援員」が3名常駐しているので、日頃の育児に対する疑問や悩みを気がねなく相談することができます。

また、広場を初めて利用することに緊張や不安がある方のために、毎月第一木曜日は「はじめてさんの日」として仲間づくりをお手伝いしています。

毎月開催している子育て講習会では、ヨガ教室や筆文字アートな

ど、保護者の息ぬきになる内容のほかにも、親子で楽しめるベビーマッサージや造形教室などを行っています。

27年度からY・Sセンターまでの移動が困難な親子を対象とし、「おでかけひろば」を実施しています。今年度は市内4ヶ所を実施予定です。

《利用者支援事業》

「子どもの夜泣きで自分自身も精神的に疲れてきた」「来年度から保育園に預けようと思うけれど、手続きの手順がわからない」「出産に備えて何をいつまでに用意すれば良いのか」など、子育て中の親子、および妊娠している方の相談に対し、地域の子育て支援事業を円滑に利用できるよう、助言や利用支援を行います。

当社協では社会福祉士や保育士の資格を持った職員が、広場内や必要に応じて自宅等へ訪問し、相談に対応します。

関係機関との連絡・調整・協働の体制づくりのほか、子育て支援に関わる職員を対象とした研修会を開催し、地域の子育て資源の育成を行っています。

また、毎月発行している市内の子育て支援団体の情報を集約した「子

育て支援情報」は、子育て支援関連機関のほか、市内店舗や医療機関等へ設置しています。

《ファミリーサポートセンター事業》

子育てを応援してほしい人と応援したい人が会員登録し、子育てを助け合います。

会員は随時募集中です。

おねがい会員

大船渡市にお住い、またはお勤め先があり、0歳～小学校6年生までのお子さんを育てている方が対象です。

通院（歯科、妊婦健診など）、買い物などのリフレッシュ、兄弟姉妹の学校（幼稚園）行事などに利用できます。

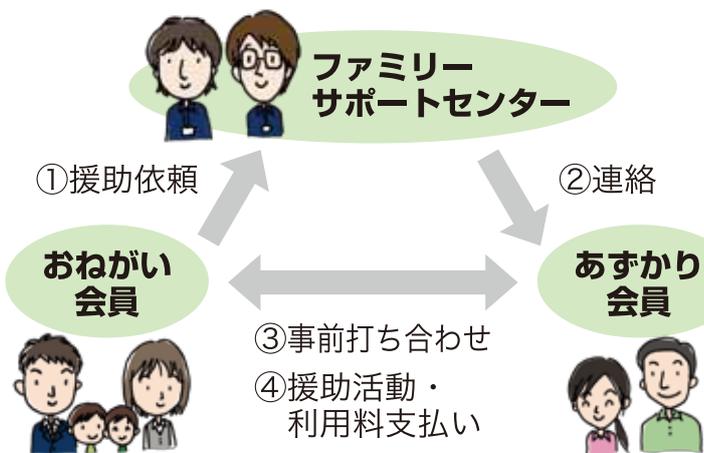
あずかり会員

大船渡市にお住まいで、心身ともに健康な20歳以上の方が対象です。会員登録後、本会で開催する講習会を受けてからの活動となります。

どっちも会員

おねがい会員とあずかり会員を兼ねる方です。

《ファミリーサポートセンター利用の流れ》



※事前打ち合わせにはアドバイザーが同席します

会員登録の方法（無料）

印鑑と会員になる方の証明写真※（3×2.5cm）をご持参のうえ、YSセンター（つどいの広場）にお越しください。

（写真がない場合は、センターで撮影しますのでご安心下さい）

YSセンターまで来られないときにはアドバイザーがご自宅に訪問し、説明や登録手続きを行います。



子どもを預ける用事ができたり、預けたいと思ったら一人で悩まず、まずはお電話を！



赤ちゃんものびのび。ハイハイやあんよができます。



親子で楽しめる制作あそびもあります。

生活支援相談員

「陽だまりサポーター」が伺います



東日本大震災の発生から6年が経過し、市内では公営住宅の完成など少しずつ復興の歩みを見せていますが、何らかの課題を抱え応急仮設住宅にとどまっている方々もいます。

当社協では、24名の生活支援相談員（陽だまりサポーター）を配置して仮設住宅やみなし仮設住宅、災害公営住宅でのお困りごと相談に対応しています。相談の内容は健康問題や家族の



仮設住宅等にお住まいの方々へ情報をお届けしながら訪問しています。

悩みが多く聞かれますが、公営住宅等に転居された方々からは住まいの確保ができた喜びをお聞きする一方で、「近所に知り合いが誰もいない」など新たな土地での生活に不安を感じている方が多くいます。

当社協では地域の交流づくりのきっかけとして「陽だまりサロン」を開催しています。これからの暮らしには、普段から声をかけ合い、いざという時に支えあえるような関係性を作るため、一人一人が互いを思いやる気持ちが必要です。

当社協としても住民の声を受け止め、関係機関へつなげるだけでなく、みなさまとともにコミュニティ形成や地域づくりに取り組んでいきたいと考えています。生活支援相談員が訪問した際には小さなことでもご相談ください。

おかげさまで50回目

鯉のぼり子どもの日



子どもたちが健やかに成長することを願い、こどもの日の恒例行事「鯉のぼり子どもの日」が、今年も福祉の里交流広場を会場に開催されました。

昭和41年、ボランティアクラブ「世代にかける橋」が中心となり、ボーイスカウトや大船渡農業高校インターアクトルクラブ等の参加、協力を得て、天神山公園を会場に開催されてから、今年で50回目を迎えました。その間、悪天候と東日本大震災に



第1回から支えてきた千葉さん(左)、寺澤さん(中)、朴澤さん(右)。

よる2度の中止こそありましたが、それ以外は毎年開催されました。

全50回に参加し、第1回目の主催者メンバーでもある「世代にかける橋」代表の千葉大三郎さんは、「自分たちが子どもの頃、何かしら子ども向けの行事があつたが、ほとんどが学校単位だったため、遊びを通じて学校の垣根を越えた交流ができる行事をしたかった。そして、お金を使わずに、自然の中で遊ばせたかった」。また、「世代にかける橋の盛岡支部で鯉のぼり子どものつどいを実施していたことも、当市での開催につながった」と、開催の経緯を話してくれました。

50回目を迎えた今年は、特別イベント「みんなで50回記念鯉のぼりをつくらう」、「劇団OPAによるステージ発表」も行われ、たくさんの子どもたち、親子が、楽しく笑顔いっぱい時間を過ごしました。

地域で育む福祉教育推進モデル事業 吉浜地区でスタートします



「福祉教育」と聞くと、「子どもたちの福祉の学びを支援する取り組み」と感じる方が多いと思いますが、近年では少子高齢化や家族構成の変化、地域課題の多様化に伴い、地域住民が主体的に地域福祉を進めていくための取り組み」と捉えるように変化してきています。

「地域で育む福祉教育推進モデル事業」は、岩手県社会福祉協議会からモデル指定を受け、実施するものです。

当社協では、吉浜地区助け合



みんなで地域活動に取り組むことで繋がりが強まります。

い協議会と協働し、今年度から3年間、吉浜地区を対象に事業を実施することとなりました。

具体的な事業として小学生と地域住民の方が交流しながらの田植えやサツマイモづくり、漁業体験、もちつき大会、そして地域の困りごとを可視化させる支えあいマップ作り、地域福祉研修会の開催を予定しています。

これらの事業を実施することで、次のような効果が期待されます。

- 1 世代間交流により、地域の高齢者を大切にすると郷土愛が育まれる。
 - 2 住民の福祉意識向上により、地域全体のつながりが強まる。
 - 3 吉浜地区助け合い協議会の役割について地域住民の理解が図れる。
- 最終的には「地域の課題は地域で解決」できるよう、共に支えあい、助け合える環境づくりに努めていくことが目標となります。

自主性・主体性を大切に 中赤崎地区交流会



東日本大震災が発生した当初、民生委員として活動していた吉田久美子さんは、支援物資を在宅避難者へ配布する日に合わせ、「お茶でも飲んで行きましょうよ」と近所の方々へ声を掛け、お茶飲み会を開催しました。

震災から6年が経過した現在も、地域住民の方、そして中赤崎出身で他地域へ移転された方が集まり、月に1回のお茶会を開



毎月大勢の方が参加して笑顔があふれます。

催しています。開催場所が介護施設内の集会所ということもあり、通所利用の方も参加しているのがこの会の特徴です。

この日集まったのは15人。今回はあさりの貝殻を使ったストラップ作りの後、お茶つこ会をしました。

過去には園芸が得意な参加者を講師に花や多肉植物の寄せ植えや年末のミニ門松作り、ハーブの奏者を招いての演奏会などを開催してきました。

参加者からは「毎回、元の地区のみんなと会えるのが楽しみで通っています」「いろいろな企画があるので楽しいです」といった声が聞かれました。

「毎月企画を考えるのは大変だけれど、外部支援者から声を掛けてもらうこともあって助かります。民生委員時代にできたネットワーク、縁はずつと大切に、いつも楽しみに来てくれる参加者を励みに頑張っています」と吉田さんは話します。

子育てボランティア養成講座

子育てボランティア養成講座を開催します。講座を修了した方は「ファミリーサポートセンター」に登録し、あずかり会員（どっちも会員）として活動ができます。※以前講習を受けた方も、再受講することができます。また、希望する科目のみ受講することも可能です。

日時 6月1日(木)～29日(木)全5回
午後1時30分～3時30分
会場 大船渡市Y・Sセンター
内容 保育の心、子どもの栄養と食生活、心の発達とその問題など
持ち物 筆記用具
定員 20名（締切6月1日午前10時）



* 寄附・寄贈物品受入報告

復興支援金

4月に、「復興支援金」として、次の方々からご寄附をいただきました。コミュニティの再形成を支援する事業に活用します。ありがとうございました。三陸踊りと唄のチャリティーショー様

福祉機器

4月に、福祉機器の寄贈がありました。いただいた物品は、障害者がいる世帯の日常生活を支援するために活用いたします。ありがとうございました。葉澤健一様（車いす）

* 共同募金情報

一般募金

4月に、次の方からご寄付をいただきました。ありがとうございました。長洞地域公民館様

赤い羽根共同募金 被災地住民支えあい活動助成事業

被災者のために活動するグループやNPOへの支援金として、活動助成事業を行っています。

対象団体 住民助け合い活動を行う岩手県在住5人以上で構成されているグループ
助成対象活動 平成29年度に被災者に対して実施する活動（例：生活支援活動、サロン活動、住民交流事業）

助成対象費用 消耗品費、印刷費、交通費など（対象外の経費や費目ごとに上限あり）

「募集」「イベント」「お知らせ」など暮らしに役立つ情報をお届けします。

お知らせ
平成29年6月

申込・大船渡市社会福祉協議会
問い合わせ先 電話 0192(27)0001(代表)

* 支えあいまちづくり事業情報

陽だまりサロン

誰でも参加できるサロンです。ご近所お誘いあわせのうえ、お近くのサロンへお越しください。

時間 午前10時から正午(猪川地区公民館でのサロンは午後1時まで)

内容 血圧測定、軽体操、ゲーム、手芸、お茶っこなど

陽だまりサロン日程（6月）

開催日	会場
2日(金)	吉浜地区拠点センター
7日(水)	崎浜公民館
13日(火)	田代屋敷公民館
13日(火)	碁石コミュニティセンター
14日(水)	鷹生公民館
16日(金)	下中井公民館
21日(水)	崎浜公民館
23日(金)	綾姫ホール
27日(火)	猪川地区公民館

* 子育て関連情報

おでかけひろば 親子でOK

子育て親子の交流の場です。カメラアホールでの「おでかけひろば」は、慢性疾患等で自宅療養中のお子さんと家族が対象です。

時間 午前10時～正午(大船渡地区公民館での「おでかけひろば」は、午後1時30分～午後3時30分)

おでかけひろば日程（6月）

開催日	会場
3日(土)	ハネウエル居場所ハウス
9日(金)	カメラアホール
13日(火)	大船渡地区公民館
28日(水)	カリタス大船渡 地ノ森いこいの家



キッズ水泳教室参加者募集

水遊びの楽しさと、プールを安全に利用するためのマナーを学びましょう。1日のみの参加も可能です。

日時 6月11日・18日・25日(日)
午前10時～正午

会場 大船渡市Y・Sセンター

対象 5歳児(年長)～7歳児(小学1年生)

定員 各日25名

参加費 無料(プール利用料別途)

申込方法 前日までに電話または直接来所し申込下さい。

*岩手県福祉人材センター情報

介護のしごと相談

キャリア支援員が福祉の職場に就職したい方などの相談に応じます。相談は、事前予約の方を優先します。

時間 午前9時～午後4時

介護のしごと相談(6月)

開催日	時間
5日(月)	大船渡市Y・Sセンター
12日(月)	大船渡市Y・Sセンター
19日(月)	大船渡市Y・Sセンター
26日(月)	大船渡市Y・Sセンター

申込・問い合わせ先

岩手県福祉人材センター・坂本さん、電話
080-8201-0200

助成金額 1団体につき、1回上限10万円
(同じ団体から1年間に2回の応募可能)

応募方法 ①応募書類に必要事項を記入。

②市町村共同募金会へ応募書を持参。

③応募書に通帳の写しを添付し、提出。

※審査に1ヶ月程度要します。



*大船渡市Y・Sセンター情報

筋力トレーニング指導

5月より、指導日が増えます。NPO法人さんりくWELLNESSに所属する健康運動指導士が指導します。

指導日 毎週水・金曜日

時間 午後1時30分～午後3時30分

会場 大船渡市Y・Sセンター

対象 中学生以上の人

受講料 無料(トレーニングルーム利用料別途)

筋力測定会開催

1分間で筋肉量、体脂肪量、水分量等がわかる筋力測定会を開催します。測定料は無料で、事前の申込は不要です。

日時 6月24日(土)

午前10時～正午、午後1時～3時

会場 大船渡市Y・Sセンター

今月の表紙

三浦 渉 さん
彩 さん
羚斗くん(9才)
桜ちゃん(2才)
晃河くん(1才)
(三陸町越喜来在住)

三陸町越喜来から家族5人で鯉のぼり子どものつどいに参加してくれました。

たくさんの鯉のぼりが泳ぐ空の下「みんなでにっこり！」笑顔をくれました。



6月号課題 「風鈴」

締め切り
6月5日(月) **必着**。
1人1句。
(自信作をひとつ)はがき使用。

投句先
立根町字下欠125-12
「Y・Sセンター」内
大船渡市
社会福祉協議会
「ふくし川柳」係

その他
作品によっては、添削する場合があります。投句者の氏名にはフリガナをつけてください。

※4月号の課題が誤って表記されておりました。
×「雑詠」 ○「道」
訂正してお詫び申し上げます。

「ふくし川柳」 課題「雑詠」 富谷英雄 選

我がメモ帳駄作満載次ページへ
山海の幸に精気をもらい生き
お待ちかね行きつ戻りつ春うらら
八十路にも元気の歩幅膨らみます

被災地の 賑わいの街 歩み出す

日・佐藤アサ子

赤・佐々木敦子
末・滝田 澄子
大・金山みどり
立・武田 みつ

(評)高田町と大船渡町の中心街に新商業施設がオープン。両町とも開店初日から多くの買い物客で賑わった。「心の復興」への第一歩として、今後の街の発展に期待をしたい。

輝き人

いの また ひろ みつ
猪 股 博 光 さん (37歳)



猪川町在住。一般社団法人大船渡青年会議所 2017年度まちづくり委員会委員長。公益財団法人ノエビアグリーン財団からの助成を受け、「まるごとひころいち自然教室」を企画。さいとう製菓(株)勤務。

米作りを通して山の魅力を伝えたい

●成長につながる経験に感謝

2年前に(一社)大船渡青年会議所へ入会して以来、青年会議所の信条である「修練」「奉仕」「友情」を大切にしながら活動をしています。仕事をしながらの活動なので時間のやりくりなど大変さがありますが、経験することのすべてが自分自身の成長につながっており、ありがたいと思っています。

●「山」という地域資源

大船渡には、海のほかにも山という素晴らしい地域資源があります。幼い頃から稲作を稼業としていた伯父の家へ遊びに行っていた私は、山の恵みや豊かさを感じながら育ちました。そこで生活する人たちの苦労や、先人からの知恵、代々繋いでい

くことの尊さも教わりました。

山には、山にしかない魅力があります。そうしたものを子どもたちにも感じて欲しい。そこで、子どもたちに農業体験を通して山の魅力を味わってもらおうイベントを開催することにしました。

●子どもたちの成長の場

農業体験イベントは、休耕田となつている親戚の田んぼを利用し、日頃市町鷹生地域の方々のご協力のもと、苗植え、案山子づくり、稲刈りを経て、収穫したお米を食するところまでを体験してもらいます。昔から苗植えの時に食べられていた「お田神」、「煮しめ」、「大福」といった食文化にふれることや、山郷に住む生き物探しもします。子どもたちにとって必要な学

びは、学校の勉強だけから得られるものではありません。学校以外の場所で、私たち大人が教えられることは、たくさんあります。今回の農業体験も、その一つ。子どもたちが何かを感じ、一回り成長できたら嬉しいです。

●故郷の素晴らしさを

知って欲しい

農業体験には、小学1年生の息子も参加します。今回利用する田んぼは、息子からすると、亡くなった大叔父の田んぼになるのですが、大叔父への思いが強い息子は、とても楽しみにしています。

大船渡に住む子どもたちの多くは、いつか、ここを離れることになるでしょう。その時に、故郷の素晴らしさを知ったうえで、自分の夢に向かって新たな一歩を踏み出して欲しいなと思います。